学校と地域を結ぶお元気情報 ＮＯ．３
大仙市立神宮寺小学校
学校支援地域コーディネーター
2009年12月22日発行

おいだらぼっち

題字 1年 なかざわこうほ　　絵 2年 宮原杏奈

おいだらぼっちは神宮寺嶽を背負ってきた心やさしい伝説の巨人

地域の力は学校の力

～あなたの応援が子どもたちの意欲を育てている～

もう１２月、まもなく新しい年が始まります。４月から１２月までの学校の活動は、目ざましいものがありました。その支えとなったのは「あなた」です。数え切れない応援の中から話題を拾ってみました。２例しか紹介できませんが、おゆるしください。

あいさつさせる大人から あいさつしたくなる大人に

町の人たちは、折にふれて「子どもたちのあいさつが良くなってきた」と話します。

以前は引っ込み思案の傾向が強くて、あいさつの言葉が少なかった子どもが、すすんでするようになってきたのです。

この子どもの変化は、子どもの自覚もありますが、町の大人の気持ちの変化からきていることも大きな要因となっていると思われます。それは、多くの人が「あいさつしたくなる大人」に変わってきたことなのです。あいさつをしたくなる大人。なんとすばらしい変化でしょう。地域が変わり、子どもが変わる。子どもが変わって、地域が変わる。その相互関係ができてきたのですね～。

全校「あいさつ集会」であいさつの心を育てる

集会では、「あいさつアンケート」の発表・あいさつゲーム・サンタクロースさんからのプレゼント「あいさつ」などがあって、楽しい一時でした。この集会で子どもたち一人一人の「あいさつ」への自覚が深まっていくのだと感じられました。

※子どもを抱きしめていますか。今日の話を聞きましたか。

さくら守るんジャー 作業の講習会

１１月２４日(火)グラウンドの桜のテング巣病の除去作業の講習会を行いました。

講師は、中川原や笹倉公園の桜を守るボランティア団体「さくらの会」の皆さん。

テング巣とは、天狗の巣と見立てた異常発育の病気です。１本の木にいくつもの病気の枝が見られ、たいへん見苦しくなっていました。

国道と鉄道にはさまれたグラウンドの桜の木の病気は、見るからに痛々しい姿をさらしていました。

「さくら守るんジャー」の活動を助けるために、講習会を開いたのでした。

ありがとう「さくらの会」のみなさん！